＜授業の感想　保護者・教員＞

・エコーを見たり、心音を聴くと、子どもがお腹にいた頃を懐かしく思い出しました。

・我が子を初めて抱いた日を思い出しました。元気に育ってくれればそれだけでいい。一番大切な想いを思い出させてもらえるいい機会になりました。

・思春期に得てほしい情報や知識は多くありますが、その根底の「自分や相手を大切にする気持ち」を教えてくれる授業だと思いました。

授業の感想を自由形式で書いてもらいました。

＜まとめ＞

・小・中学生に「いのちの授業」を行った。
・子どもたち・保護者・教員みんなでいのちについて体感できたと考える。
・これからも大切ないのちのメッセージを伝えたい。

まとめです。

小中学生を対象にいのちの授業を行いました。

子どもたち・保護者・教員みんなでいのちについて体感できたと考えます

これからもいのちに関わるメッセージをひろく伝えていきたいです。

演題 286

和良地域における30年間の死亡データの推移

発表者　**廣瀬　英生**　（岐阜県：郡上市地域医療センター国保和良診療所）
共同研究者　後藤　忠雄、加藤　洋子、中嶋　敦子

今回我々は、岐阜県郡上市和良町における30年間の死亡データをまとめましたのでここにご報告いたします。背景です。

背景

✓住民の死亡状況、原因を調査することは、健康計画を策定するうえでも重要である。
✓当センターでは、1983年から全住民の死亡原因を把握している。

目的

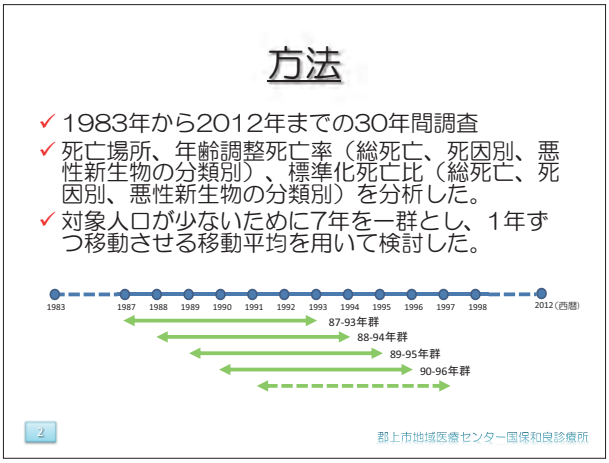
✓郡上市和良地域における30年間の死亡数、死亡場所、死因を調べること

1　郡上市地域医療センター国保和良診療所

住民の死亡状況、原因を調査することは、健康計画を策定するうえでも重要であります。

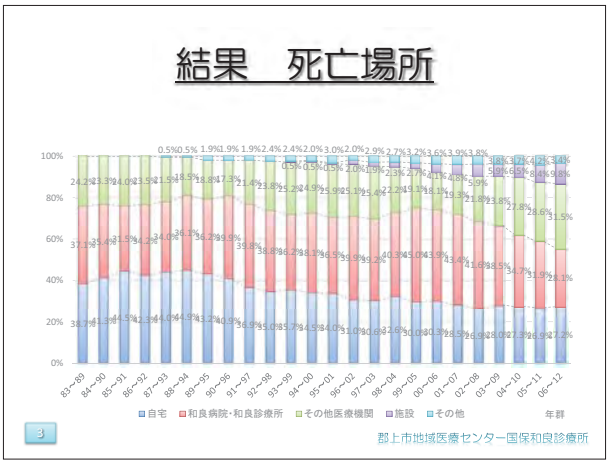
当センターでは、1983年から全住民の死亡原因を把握しております。

目的です。郡上市和良地域における30年間の死亡数、死亡場所、死因を調べることです。

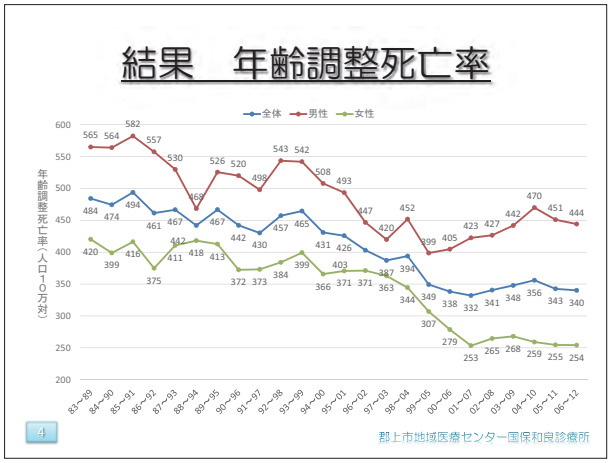


方法です。1983年から2012年までの30年間調査です。

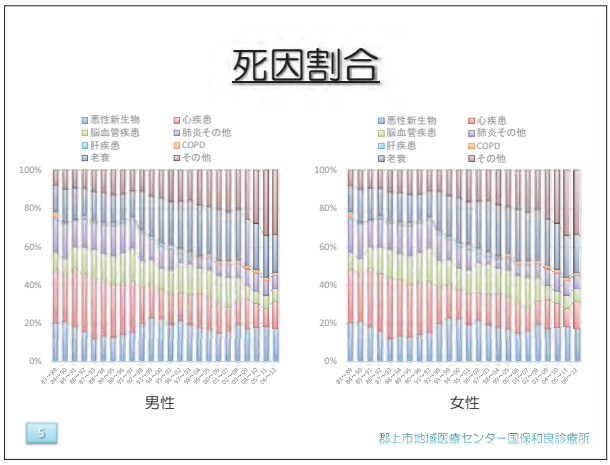
死亡場所、年齢調整死亡率（総死亡、死因別、悪性新生物の分類別）、標準化死亡比（総死亡、死因別、悪性新生物の分類別）を分析しました。図にお示ししますように、対象人口が少ないために７年を一群とし、１年ずつ移動させる移動平均を用いて検討いたしました。



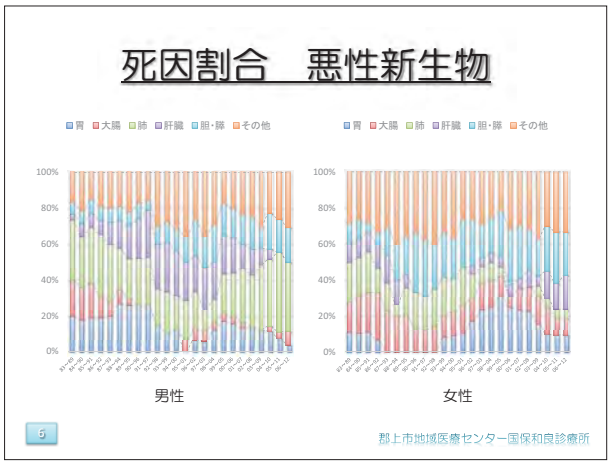
死亡場所ですが、和良診療所、在宅死はやや減少し、その他の医療機関（多くは周辺の２次、３次医療機関）及び施設での死亡が増加しています。



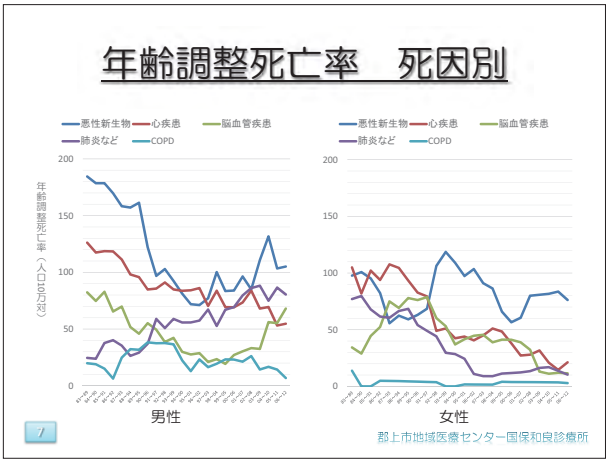
総死亡に関する年齢調整死亡率をお示しします。2006年までは減少傾向でしたが、それ以降は横ばい、男性に関しては、やや増加しております。



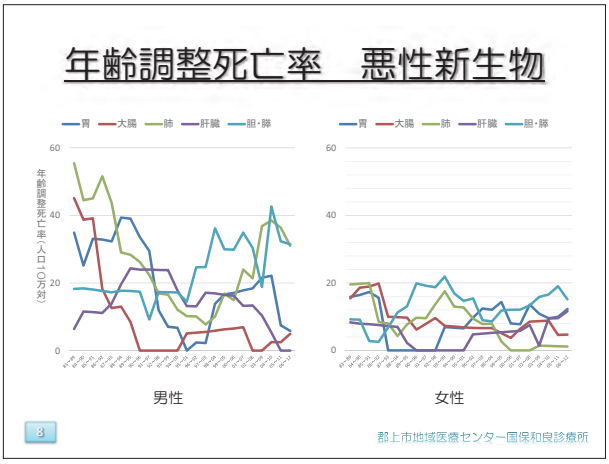
死亡割合ですが、心疾患の割合が減少しております。



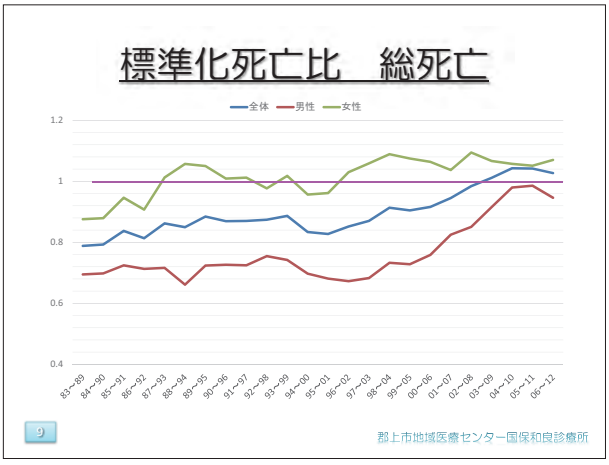
悪性新生物の死亡割合です。男女とも胃癌の割合が減少し、男性での肺癌の増加を認めます。



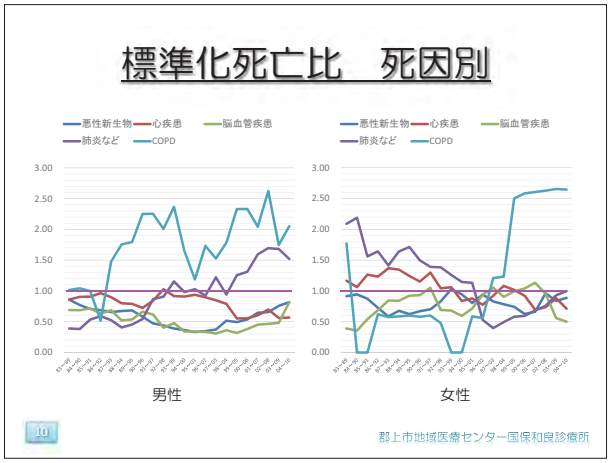
男性では、心疾患が減少しています。悪性新生物、肺炎の増加と、一時減少していた脳血管疾患の増加、女性では悪性新生物、COPD は横ばい、他は減少傾向。



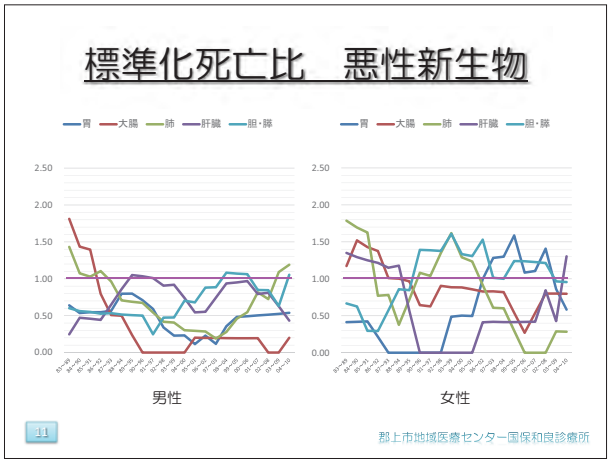
悪性新生物では男性で肺がん、胆・膵がんの増加、女性では、はっきりとした傾向は認められません。



男女とも近年は１前後で、全国より低いレベルにありましたが、近年は全国レベルとなっています。

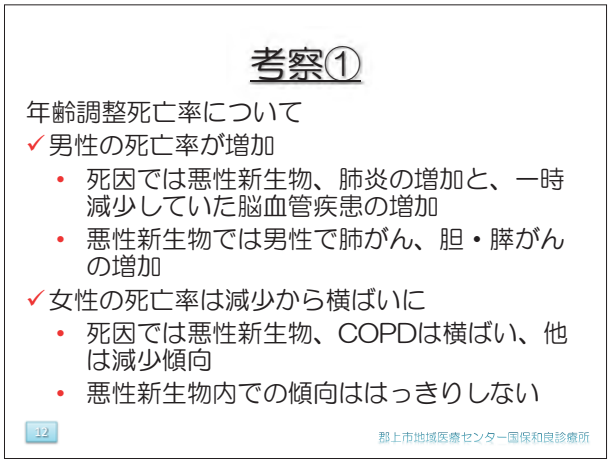


男性では、COPD、肺炎。女性では、COPD が全国レベルを超えています。



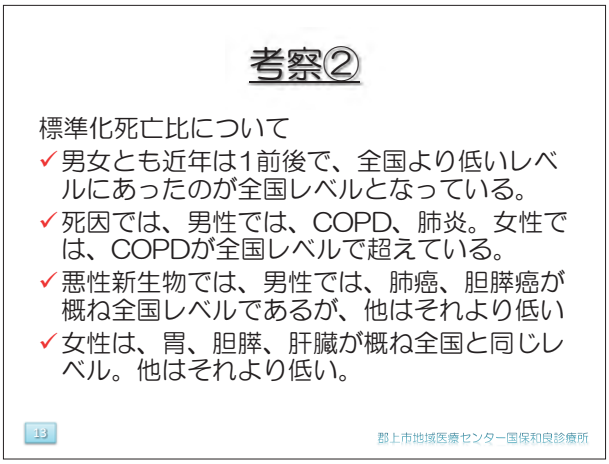
悪性新生物では、男性では、肺癌、胆膵癌が概ね全国レベルであるが、他はそれより低い傾向にありました。

女性は、胃、胆膵、肝臓が概ね全国と同じレベル。他はそれより低かったです。



考察です。男性の死亡率が増加。死因では悪性新生物、肺炎の増加と、一時減少していた脳血管疾患の増加、悪性新生物では男性で肺がん、

胆・膵がんの増加、女性の死亡率は減少から横ばいに死因では悪性新生物、COPD は横ばい、他は減少傾向、悪性新生物内での傾向ははっきりしません。

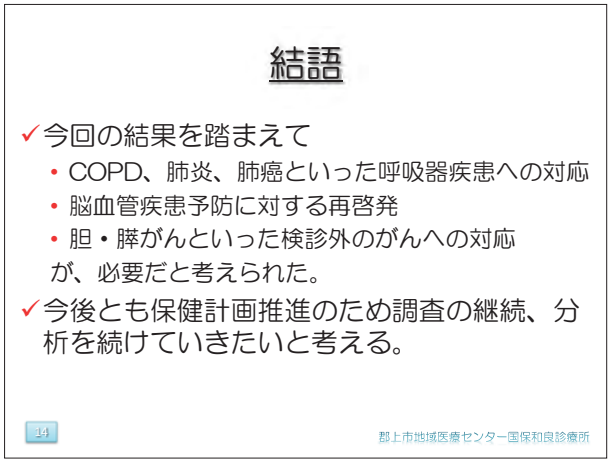


標準化死亡比について、男女とも近年は 1 前後で、全国より低いレベルにあったのが全国レベルとなっています。

死因では、男性では、COPD、肺炎。女性では、COPD が全国レベルで超えています。

悪性新生物では、男性では、肺癌、胆膵癌が概ね全国レベルであるが、他はそれより低いです。

女性は、胃、胆膵、肝臓が概ね全国と同じレベル。他はそれより低いです。



結語です。

今回の結果を踏まえて、COPD、肺炎、肺癌といった呼吸器疾患への対応、脳血管疾患予防に対する再啓発、胆・膵がんといった検診外のがんへの対応が、必要だと考えられました。

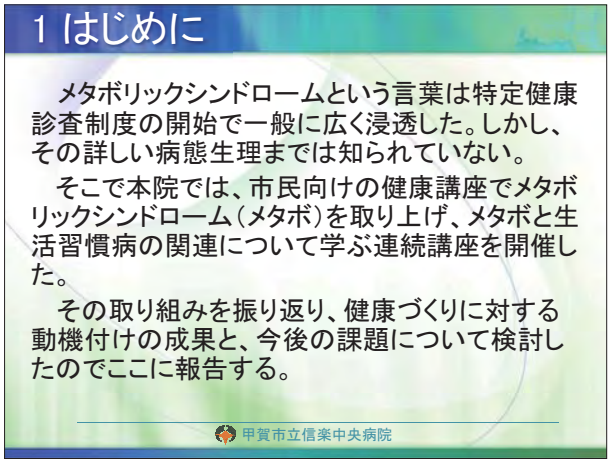
今後とも保健計画推進のため調査の継続、分析を続けていきたいと考えます。

演題 287

メタボ教室連続講座を開催して
―動機付けの成果と今後の課題―

発表者 **田中 美香**（滋賀県：甲賀市立信楽中央病院）

共同研究者 鈴木 茂子、高岡 仁美



はじめに・・・

メタボリックシンドロームという言葉は特定健康診査制度の開始で一般に広く浸透しました。